

平成 15 年 2 月 10 日

物流連ニュースリリース

第 5 回会員研修会を開催

(社)日本物流団体連合会(会長:栗林貞一)は、平成 15 年 2 月 6~7 日にかけて静岡県小山町の経団連ゲストハウスにおいて、「**3PL ビジネスと物流業の意識変革**」をテーマとして、第 5 回会員研修会を開催致しました。会員企業・団体より 48 名の参加者がありました。

開会にあたり栗原理事長より、「物流連の人材育成のプログラムとしては、大学への寄付講座と会員研修会がある。今回の会員研修会からは特別講演と施設見学会を加えてカリキュラムをより充実したものとし、これまでで最も多い方にご参加頂いている。今年のテーマは 3PL ビジネスについてとしたが、これは昨年の研修会で示された、付加価値の増大、攻めの経営、ソフト重視という物流業の方向性の延長線上にある。先進的な企業の事例から多くを学び、また他社の方々とも懇親を深めて頂きたい」旨のあいさつがありました。

引き続き、講演とそれを受けてのグループ討議、翌日は全体討議を行いました。今回から新しいプログラムとして、特別講演と施設見学会を行い、研修内容の充実を図っています。

講師及び講義内容は下記の通りです。

特別講演

「次世代リーダーに期待するもの」

(社)日本物流団体連合会 会長 栗林 貞一 氏

最近、最も注目を集めている経営者の一人はやはり日産自動車のカルロス・ゴーン氏である。氏はカリスマ的経営者と思われがちだが、繊細な配慮をもって経営を進めている。そのポイントは、ビジョン、目標、行動計画、リーダーの情熱と強固な意志、それに伴うメンバーのモチベーション、社内のコミュニケーション、以上の ~ の結果を負う、結果責任の 4 つである。これらを達成するためのリーダーシップは天分ではなく、自分で学びとっていくものであり、これから各企業の中核を担っていく皆さんもそのことをぜひ心に留めて頂きたい。

講演 1

「3PL ビジネスと物流業の意識変革」

(株)日通総合研究所 常務取締役 湯浅 和夫 氏

3PLの定義は内外様々あるが、そのポイントは荷主企業の物流アウトソーシングを受託することにある。物流面が遅れている荷主企業は、現在の物流システムに留まる限り決して先進企業に追いつくことは出来ない。ここに物流事業者のビジネスチャンスがあるが、実際にはどこに利潤を見出すのか、どの業務を受託すべきか、3PLに必要な能力とは何か、そして荷主企業の持っている現実の課題をどう解決するか、といった点が問題であり、こうした課題をクリアするには人材・ノウハウと情報システムの構築が不可欠である。

講演2

「イオンの物流戦略」

イオン(株) 物流統括部長 高橋 富士夫 氏

当社は、国内の流通業の中では勝ち組と言われているが、世界の小売業の中の売り上げ規模順位は下がっており、危機感を持っている。そのため中期経営課題としてグローバルレベルでの経営体質の確立を目指しているが、その中核となるのが新たな物流システムの構築である。問屋を通さない直接取引の推進による仕入れ価格の低減、食品売り場のような集中レジ方式の全売り場への導入による人件費削減、バックスペースの削減による店舗建設コストの圧縮等のコスト削減策はいずれも物流改革なくしては成り立たない。そのため物流事業者をパートナーとして物流網を構築しつつある。

講演3

「物流市場の潮流と3PL事業」

(株)日立物流 専務取締役 山本 博巳 氏

3PLに取り組むには社内体制の整備が不可欠である。当社ではシステム営業、IT、物流技術の3部門を統括して3PLを進めるロジスティクスソリューション部を設けている。3PL事業推進のためには特に情報システムの構築が不可欠であり、営業部門に匹敵する人数をこれに充当している。3PLの課題としては、顧客といかにWIN-WINの関係を構築するか、グローバル化への対応、お客様どうしの協調による新サービスの開発、お客様のニーズに応えるための同業他社との協調、といったことが挙げられると思う。

施設見学

(株)リコー 御殿場事業所

同社は「環境経営」を柱の一つとしているが、プリンター等のOA機器を製造している同事業所(工場)も、ごみゼロを達成するなど、環境面を重視した先端的な生産に取り組んでいる。施設見学として同工場を訪問し、概況説明、生産ライン見学、物流関連施設の見学を行った。